

## シリーズ景観 83

嫁ヶ島よめがしま

「みんなで残したい松江の景観400選集」から  
景観審議会が特別にお薦めする景観

No. 221

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、  
市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】  
まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索

嫁ヶ島は、1200万年前の火山活動によって噴出した黒色の玄武岩でできており、宍道湖の東浜沿岸に所在する宍道湖唯一の島です。出雲国風土記では「蚊島」と記されていますが、後に「嫁島」の字に転化するともに、島の成り立ちを語る伝説も相まって「嫁ヶ島」の呼称が定着したと言われています。

クロマツの苗木が植樹されたりしました。  
このような歴史をもつ嫁ヶ島は、宍道湖を代表する景観であることや、市民による主体的な活用と保護活動が積み重ねられてきたことが評価され、令和3年3月26日に市内では初となる国の登録記念物（名勝地関係）に登録されました。  
夕日スポットや岸公園、白潟公園などから見える嫁ヶ島の美しさと、その景観を守り続けてきた先人たちに思いを巡らせてみるのはいかがでしょうか。

また、近代になると市民による島の保全活動が活発化し、盛土や如泥石などによる護岸工事が行われ、松江市出身の政治家・若槻礼次郎から寄付された